

東環協ニュース

発行●東京都環境計量協議会

〒114-0013 東京都北区東田端1-12-3
稲垣ビル5F セフティレビュー内
TEL (03) 5855-0260
FAX (03) 5855-0261
MAIL toukankyo@mbs.sphere.ne.jp
URL <http://www.toukankyo.org>

- ★ 第35回通常総会報告
 - ・第35回通常総会議事録
 - ・総会資料
- ★ 第35回通常総会後の懇親会報告
- ★ 平成24年度 新任者教育セミナー報告
- ★ 新入会員のご紹介
- ★ 新役員の挨拶
- ★ 役員の仕事分担
- ★ 放射線関係情報(2)
- ★ 水質汚濁防止法改正について
- ★ 関係機関・団体の動き
 - ・首都圏環境計量協議会連絡会
 - ・神奈川県環境計量協議会
 - ・埼玉県環境計量協議会
 - ・千葉県環境計量協会
 - ・日本環境測定分析協会
- ★ 東環協からのお知らせ
 - ・平成24年度これからの主要行事予定
 - ・事務局からのお知らせ

第 35 回通常総会報告

平成 24 年 5 月 10 日(木)、第 35 回通常総会が四谷スクワール麹町 5 階「寿の間」で開催されました。正会員 24 社のご出席をいただき、32 社の委任状と合わせ定数を充足していることから、定刻の 16 時 30 分、佐藤副会長が総会の成立を宣言しました。議長には鈴木会長が選出され、竹田副会長により昨年度の事業報告並びに収支決算報告、今年度の事業計画・予算案の説明が行われました。今年は役員改選期でもあり、金子理事・濱砂理事・佐々木監事が退任され、新たに戸賀瀬理事・石山監事・泉監事が選任されました。審議は滞りなく進行し、17 時 50 分に総会は無事終了いたしました。詳細は議事録及び総会資料をご覧ください。

鈴木会長の挨拶



<鈴木会長>

ただ今、ご紹介に預かりました会長の鈴木でございます。総会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日はご多用中、本総会に多数ご出席頂き誠に有難うございます。

東京都計量検定所から柳沢副所長、日本環境測定分析協会からは津上関東支部長にご来席いただき有難うございます。

昨年は、東日本大震災の混乱の中での総会でしたが、それから 1 年経っても、被災地のがれき処理はなかなか進まず、原子力発電所の事故に伴う放射能汚染への対応もやっと除染の方針が出来て始まったところです。

私たちの業界を見ますと、一般の環境測定は横ばいか減少ぎみで、景気の不透明さから、民間からの分析業務も停滞気味の状況です。

震災関係の業務では、放射能測定をはじめ、がれき処理に伴うアスベスト調査などが発生しておりました。これらの業務は、今後除染事業、復興事業が本格化するにつれてさらに増えると思われれます。

東環協の昨年度の大きなイベントとしては、10 月 5、6 日にホテルイースト 21 で開催されました日環協の環境セミナー全国大会の開催に協力したことがあげられます。その際には、多くの会員の皆様で開催準備、大会への参加とご協力いただきありがとうございました。また研修見学会では、静岡県地震防災センターに行き、今後起きることが予想される首都直下型地震や東南海沖地震に備え防災意識の向上に努めました。

現在、私たちの業界の大きな問題の一つが分析価格低下の問題です。測定項目が多様化し、さらに精度管理が厳しく求められる中、低価格競争にさらされており厳しい状況が続いております。これに対して発注者も精度を保った調査・分析を求めており、入札価格の低下に伴う品質の低下を懸念し、最低価格制度の導入や低価格入札に対するペナルティーを設けるところが増えてきております。

東環協も首都圏の他の県単とともに、発注者へ最低価格制度の導入などについての働きかけを

行ってきております。

私たちにしても、調査・分析に係る精度管理の水準を高く保つことが大切な課題であり、おろそかにできない問題であります。「新任者教育研修」をはじめ「技術研修会」を開催し会員の皆様の精度管理、技術の向上に役立てるような企画をしてみました。

これより第 35 回の通常総会におきまして、平成 23 年度の事業報告と収支決算報告ならびに平成 24 年度の事業計画案と収支予算案ならびに役員改選のご審議を頂くわけですが、皆様の活発なご意見、ご討議をお願いしたいと思います。

簡単ですがご挨拶とさせていただきます。



<通常総会風景(事業報告)>



<通常総会風景(監査報告)>

東京都環境計量協議会
平成24年度（第35回）通常総会
議 事 録

日 時 : 平成24年5月10日（木） 16:30～17:50
場 所 : スクワール麹町（東京都千代田区麹町6-6）
出席者 : 56社（うち委任状32社）

佐藤隆副会長が16時30分、正会員総数80社中56社の出席があり、会則第12条により総会が成立することを宣言した。

総会を開催するに当たり、最初に鈴木幹夫会長が挨拶を行った。

会則第14条に従い、会長が議長となったが、議事に入る前に会長は議事録署名人として、(株)オオスミ 鈴木典子氏、新日本環境調査(株) 川岸邦充氏を指名し、両氏はこれを承諾した。

議 事

1. 第1号議案「平成23年度事業報告承認の件」及び第2号議案「平成23年度収支決算報告承認の件」について

竹田良平副会長が、配布された総会資料に基づき説明した。引き続き中村勉監事が、平成23年度決算書について詳細に監査した結果、収支状況を正しく示していると報告した。第1号議案及び第2号議案について一括審議した結果、異議なく承認された。

2. 第3号議案「平成24年度事業計画（案）審議の件」及び第4号議案「平成24年度収支予算（案）審議の件」について


竹田良平副会長が、配布された総会資料に基づき説明した後、第3号議案及び第4号案について一括審議した結果、異議なく承認された。


3. 第5号議案「役員改選の件」について


鈴木幹夫議長より、本年度は役員改選の時期なのでただいまより候補者につき、ご審議をお願いしたいと提案した。そして、鈴木議長より総会資料に基づき事務局案を提案した。その結果次の新役員候補者12名の就任が全会一致で承認された。

以上で第35回通常総会の議事が終了し、17時50分佐藤隆副会長の閉会の言葉で閉会した。

以上

議 長 鈴木幹夫 

議事録署名人 鈴木典子 

議事録署名人 川岸邦充 

平成 2 4 年 度

第 3 5 回
総 会 資 料

平成 2 4 年 5 月 1 0 日 (木)

東 京 都 環 境 計 量 協 議 会

総 会 次 第

1. 日 時 平成24年5月10日(木)
午後4時30分
2. 場 所 スクワール麴町 5階「寿の間」
3. 総会の成立と開会宣言
4. 会長挨拶
5. 議長選出
6. 議事録署名人の選出
7. 議 案
 - 第1号議案 平成23年度 事業報告承認の件
 - 第2号議案 平成23年度 収支決算報告承認の件
監査結果報告
 - 第3号議案 平成24年度 事業計画(案)審議の件
 - 第4号議案 平成24年度 収支予算(案)審議の件
 - 第5号議案 役員改選の件
8. 閉会の言葉

[第1号議案]

平成23年度事業報告

平成23年度は、(一社)日本環境測定分析協会主催の環境セミナー全国大会が10月5～6日ホテルイースト21東京で開催され、当協議会といたしましては、「技術研修会」、「事例発表会」を兼ねまして、共催、参画いたしました。東日本大震災後にかかわらず、多くの方に参加していただき盛大に開催することが出来ました事は、日頃より、会員の皆様の検査分析に対する関心の深さの表れではないかと察します。

さて、昨年度はここ数年来の低価格競争に加えて東日本大震災の影響に伴う景気低迷に伴い、計量証明事業所の統合、廃業する業者が目立つようになったと思われまます。

このような厳しい業界の中でも、当協議会は「環境計量証明の測定・分析データの信頼性及び品質向上」、「分析技術者の技術向上」をスローガンとし、測定・分析業界の発展に寄与すべく、多くの会員企業と試薬及び機器メーカー等と交流出来るよう日々努めて参りました。

また、環境省、東京都計量検定所ほか関係官庁には、日頃よりご指導・ご協力を仰ぐと共に(一社)日本環境分析測定協会ならびに首都圏環境計量協議会連絡会、大阪環境測定分析事業者協会などの関連団体と連携を図りながら、若手技術者を対象とした「新任者教育セミナー」の開催や日環協環境セミナー全国大会を企画・開催することで会員相互の交流と技術情報習得の一端を担ってきたものと考えております。

以下に、それらの詳細をご報告致します。

平成24年3月31日現在の会員数

正会員 80社(入会2社、退会5社)

賛助会員 8社(入会3社、退会0社)

合計 88社

役員 会長 1名、副会長 2名、理事 7名、監事 2名、顧問 1名

1. 会議の開催

(1) 総会 平成23年度(第34回)通常総会

日時 : 平成23年5月9日(月) 17:00～17:50

場所 : スクワール麹町(東京都千代田区麹町6-6)

出席者 : 61社(うち委任状36社)

(2) 役員会

全体会議 : 5回

平成23年 : 5月9日、7月8、9日、10月20日、12月6日

平成24年 : 3月16日

(3) 部会会議

総務、業務、技術の3部会で必要に応じて担当理事による会議を開きました。

2. 事業活動

(1) 新任者教育セミナー

当協議会では「環境計量に関する測定データの信頼性の向上」また「安全・安心を提供できる技術者の育成」をスローガンとして各種技術講習会等を企画しております。今回も昨年度同様、(社)日本環境分析測定協会関東支部との共催ならびに千葉県環境計量協会、埼玉県環境計量協議会(今回から共催)との合同開催による『新任者教育セミナー』を実施致しました。今年度は、東環協から19名、千環協から25名、埼環協7名の合計51名に参加頂きました。

日 時 : 平成23年6月15日(水) 10:00~17:00

場 所 : (社)日本環境測定分析協会 研修室

講義1「労働安全衛生について」 (10:45~12:00)

講 師 : セフティレビュー 大山 喜彦氏

講義2「環境計量の仕事とは」 (12:45~14:15)

講 師 : 小池技術士事務所 小池 満氏

講義3「精度良い測定のために」 (14:30~16:00)

講 師 : 日本環境(株) 関 友博氏

修了証授与式&名刺交換会 (16:00~17:00)

- ◇ 講義1では、労働安全衛生の基礎から測定業務における安全管理や労働安全衛生の進め方などの講義がなされ、聴講者からは日常業務におけるリスクアセスメントや危険予知訓練(KYT)の必要性が参考になりましたとの感想が聞かれました。
- ◇ 講義2では、計量の歴史から地球環境問題、また環境関連法規や計量証明事業登録制度、さらには国際規格や資格取得に至るまでの幅広い内容の講義がなされ、聴講者には環境問題が社会的に注目されてきた経緯などの認識を深めて頂きました。
- ◇ 講義3では、「精度」と「正確さ」について、また標準物質と試薬・器具類の管理、さらに自己管理の必要性和サンプリングの基礎とデータの取り扱い(不確かさ・再現性)に至るまでの講義がなされ、聴講者からは精度の良いサンプリングの重要性をはじめ分析機器、試薬の管理の重要性など実際の業務で直面する事例に参考になりましたとの声が多く寄せられました。

講義の後の名刺交換会では、千環協、埼環協の参加者と共に、年齢、所属企業を越えて、それぞれ名刺交換しながら、仕事の情報交換をする光景が見られるなど活気あふれる交流会ができました。

(2) 濃度、騒音・振動関係技術研修会及び環境測定技術事例発表会

本年度は日環協・環境セミナー全国大会in Tokyoと共催いたしました。

平成 23 年度 第 19 回 日環協・環境セミナー全国大会 in Tokyo

日 時 : 平成 23 年 11 月 5 日(水)～6 日(木)

場 所 : ホテルイースト 2 1 東京

参加者 :

5 日 : 東京スカイツリー見学参加者	2 0 名
一般来場者数 (スタッフ含む)	1 8 7 名
機器展示ブース企業参加者	7 3 名
特別講演聴講者数	約 2 1 0 名
懇親会参加者数	約 2 3 0 名

6 日 : 東京スカイツリー見学参加者	2 8 名
一般来場者数 (スタッフ含む)	2 1 1 名
機器展示ブース企業参加者	6 5 名
技術者発表参加者数	一般来場者数と同じ

① 特別講演 I (5 日 14:00～14:50)

演 題 : 「東日本大震災における大気環境行政の対応」

講 演 者 : 環境省 水・大気環境局 大気環境課長 山本 光昭氏

◇ 山本氏には、東日本大震災におけるアスベストの飛散状況、アスベスト除去の必要性、大気汚染自動測定機の放射線による影響、被災地における大気環境緊急モニタリングなどの説明をいただきました。また光化学オキシダント削減の為の VOC 対策の今後の取り組み、方針を説明いただき大変役に立ちました。

② 特別講演 II (5 日 15:00～15:50)

演 題 : 「水環境における近年の課題」

講 演 者 : 環境省 水・大気環境局 水環境課長 吉田 延雄氏

◇ 吉田氏には、水質汚濁防止法の改正の主旨説明、今後の規制対象物質、水行政の課題、最後に放射性物質の分析、放射性物質の除染について今後の課題についてご講演していただきました。

③ 特別別講演 III (5 日 16:00～16:50)

演 題 : 「ISO/IEC17043 及び技能試験による精度管理について」

講 演 者 : 独立行政法人産業技術総合研究所 津越 敬寿氏

◇ 津越氏には、ISO/IEC17043 の制定の経緯、精度管理の為の技能試験の必要性等のご講演をいただきました。

④ 日環協からの報告 (5日16:50~17:00)

報 告 : 「東日本大震災における日環協の対応と報告」

報 告 者 : (社) 日本環境測定分析協会 事務局 宇佐見 努氏

◇ 宇佐見氏からは東日本大震災におけるボランティア、義援金、など日環協の取り組みについて報告がありました。

⑤ 環境測定技術事例発表会 (6日9:00~12:00)

技術発表会は、3会場で24テーマが発表されました。

今回の発表の内訳は濃度関係10題と最も多く、大気関係4題、農薬2題、アスベスト2題、PCB1題、騒音1題、土壌1題、その他3題でありました。内容も濃く質疑応答も活発に行われ、充実した事例発表会になったと思われま

⑥ 特別企画 (5日、6日)

・東京スカイツリー見学

初日は雨模様の天候で第一展望台より上部が雲に隠れていたため、参加者にとっては少し残念な結果となりましたが、2日目は、一転して晴天に恵まれ良い見学ツアーになりました。

(3) 新春賀詞交歓会

日 時 : 平成24年1月27日(金) 18:30~19:30

場 所 : スクワール麴町 5階「芙蓉の間」

出席者数 : 78名(会員37社・73名、賛助会員1社・2名、
来賓3名)

◇ 新年のご挨拶を鈴木会長、来賓として(一社)日本環境測定分析協会・会長である橋場常雄様から頂戴した後、来賓で日環協関東支部支部長であられます津上昌平様の乾杯で新春賀詞交歓会がスタートしました。

◇ 歓談の途中では、竹田理化工業株式会社、よりご挨拶を頂戴致しました。

◇ 歓談後は、恒例のビンゴ大会を行い、賞品を貰う参加者らは満面の笑みを浮かべる方々で大いに盛り上がりました。

(4) 東環協ニュースの発行（年3回）

第147号：平成23年 7月28日

第148号：平成23年12月20日

第149号：平成24年 2月28日

(5) 東環協メール情報サービス（9件）

昨年度より開始したメール情報提供をNo.201～No.209まで行いました。

(6) 見学・研修会

本年度の東環協見学・研修会は、3月11日に起きた東日本大震災の教訓により、静岡県静岡市にある「静岡県地震防災センター」の見学をメインとして、下記スケジュールで実施しました。静岡県地震防災センターは、東海地震に立ち向かうための知識と技術の普及向上、防災意識を高めることを目的に平成元年に開館されました。

日 時：平成23年9月6日（火）8：20～18：40

参加者：24名（男性19名、女性5名）

行 程：新宿駅西口出発—静岡県地震防災センター—新宿駅西口解散

- ◇ 昼食後、バスで少し移動し、今回の目的地『静岡県地震防災センター』に到着しました。昭和51年8月に、静岡県を中心とした東海地域で「大地震が明日起こっても不思議ではない。」という東海地震説が発表され、大きな社会問題となりました。これ以降、静岡県では東海地震対策が始まり、東海地震に立ち向かうための知識と技術の普及向上、防災意識の高揚、自主防災組織の活性化を図ることを目的として、平成元年に「静岡県地震防災センター」が開館されたそうです。
- ◇ 静岡県地震防災センターの見学を終え、焼津 IC 近くの土産センターに立ち寄って土産を買った後、バスに乗り込み帰路につきました。途中、大きな交通渋滞もなく、予定どおり18時半頃、新宿駅西口に戻ってきました。

(7) 首都圏環協連関連事業

首都圏環協連委員会：4回

平成23年：6月9日、9月27日、12月2日

平成24年：2月10日

- ◇ 各県単の活動状況を報告し合い、当業界を取り巻く諸問題について意見交換しました。
- ◇ 23年度より分析単価等検討委員会を立ち上げ、大環境との交流も始めました。

(8) 東京都計量検定所関連事業

期 日 : 平成23年11月1日(火)

イベント : 「都民計量のひろば」

場 所 : 新宿駅西口イベント広場

主 催 : 都民計量のひろば実行委員会

構成団体等 : 東京都計量検定所、(社)東京都計量協会、東環協等18団体

◇ 平成23年度の「都民計量のひろば」のメインテーマは昨年度と同様に「くらしと計量」、サブテーマは「正しくはかって明るい未来」でした。

◇ 東環協は例年通り「環境と計量コーナー」を担当し、可燃ガス検知モニターやホルムアルデヒドなどの検知管、CO₂計、騒音計、放射線測定器などの測定機器を中心に展示・デモンストレーションを行いました。

◇ 環境問題をテーマにしたクイズを行ったところ、360名に参加頂きました。参加者には当会の正会員である㈱ヤクルト本社様より無償提供頂きましたリサイクル品のエコスタンドを景品として配布致しました。

◇ 主催者側の発表によれば、来場者は延べ1,000名ということでした。

(9) 平成23年度親睦ゴルフ大会

第1回(通算第22回)

開 催 日 : 平成23年6月17日(金)

場 所 : 富貴ゴルフ倶楽部

参加者数 : 16名

第2回(通算第23回)

開 催 日 : 平成23年10月7日(金)

場 所 : 若洲ゴルフリンクス

参加者数 : 20名

〔第 2 号議案〕

本議案については、当協議会のネット規定上、公開しないこととします。

[第3号議案]

平成24年度 事業計画 (案)

1. 会議の開催

- (1) 総会 平成24年5月10日(木)
- (2) 役員会 6回程度(予定)

2. 事業活動

(1) 総務関係

- ①ニュースの発行 3回(予定)
- ②会員名簿の発行 7月(予定)
- ③首都圏その他の連絡会議への参画
- ④ホームページの更新
- ⑤各種資料の配付

(2) 技術関係

- ①新任者教育セミナー 6月(予定)
- ②技術研修会 10月(予定)
- ③環境測定技術事例発表会 11月(予定)

(3) 業務関係

- ①見学会及び新春賀詞交歓会
 - ・見学会 9月(予定)
 - ・新春賀詞交歓会 平成25年1月(予定)
- ②都民計量のひろば行事 11月1日(予定)
- ③その他(各種親睦会等)
 - ・ゴルフ大会 6月、9月の2回(予定)
 - ・その他

(4) 官公庁その他に対する協力

- ①東京都計量検定所が行う講習会への協力
- ②(一社)日本環境測定分析協会関東支部が行う行事への協力
- ③その他

以上

[第4号議案]

本議案については、当協議会のネット規定上、公開しないこととします。

[第5号議案]

役員改選の件（案）

東京都環境計量協議会役員立候補者名簿（平成24年4月20日現在）

任期：平成24年5月総会后～平成26年5月総会まで

	立候補者	会社名
1	青木 博	(株) 環境管理センター
2	五十嵐 鋼	(株) 東京環境測定センター
3	池田 郁司	(株) 日新環境調査センター
4	石山 直樹	日本環境 (株)
5	泉 健司	エヌエス環境 (株)
6	川東 光三	(株) トーニチコンサルタント
7	佐藤 隆	(株) 分析センター
8	鈴木 幹夫	いであ (株)
9	竹田 良平	ヒロエンジニアリング (株)
10	戸賀瀬 龍幸	帝人エコ・サイエンス (株)
11	中西 昇	(株) 環境科学コーポレーション
12	中村 勉	(株) 環境技術研究所

*あいうえお順敬称略

定員：理事12名、監事2名

東環協選挙管理委員会

第5号議案

平成24・25年度役員改選（案）

新役員

任期:平成24年5月総会後～平成26年5月総会まで

	役職	氏名	会社名
1	会長	鈴木 幹夫	いであ（株）
2	副会長	佐藤 隆	（株）分析センター
3	副会長	竹田 良平	ヒロエンジニアリング（株）
4	理事	青木 博	（株）環境管理センター
5	理事	五十嵐 鋼	（株）東京環境測定センター
6	理事	池田 郁司	（株）日新環境調査センター
7	理事	川東 光三	（株）トーニチコンサルタント
8	理事	中西 昇	（株）環境科学コーポレーション
9	理事	中村 勉	（株）環境技術研究所
10	理事	戸賀瀬 龍幸	帝人エコ・サイエンス（株）
11	監事	石山 直樹	日本環境（株）
12	監事	泉 健司	エヌエス環境（株）

*敬称略

東環協選挙管理委員会

第 35 回通常総会後の懇親会報告

総会終了後、恒例の懇親会が 18 時から、同じくスクワール麹町の 5 階「芙蓉の間」にて、会員企業 34 社 57 名、来賓 5 名の方々にご出席いただき、盛大に開催されました。来賓には東京都計量検定所 副所長 柳沢 潔氏、日本環境測定分析協会 会長 橋場常雄氏、同協会 関東支部長 津上昌平氏、同協会 顧問 田畑日出男氏、当協議会 顧問 三階貴男氏をお迎えしました。

司会は金子前理事が務め、鈴木会長の挨拶に始まり、来賓を代表して計量検定所の柳沢副所長と日環協の橋場会長よりご祝辞をいただきました。日環協の田畑顧問による乾杯の発声により懇親会が始まり、それぞれ歓談しながら楽しい時間を過ごしていました。宴たけなわの中、青木理事の音頭による中締めで、和やかなうち懇親会が終了しました。



< 乾杯の音頭をとる田畑顧問 >



< 懇親会風景(1) >



< 懇親会風景(2) >



< 青木理事の中締め >

鈴木会長の挨拶



<鈴木会長>

本日は、お忙しい中、第35回通常総会、そして懇親会に多くの方にご出席いただきありがとうございます。日本環境測定分析協会からは橋場会長、津上関東支部長、田畑顧問にもご来席いただき御礼申し上げます。計量検定所の柳沢副所長には総会から引き続き参加いただきありがとうございます。

皆様のご協力により第35回総会も無事終了しましたことをご報告いたします。

今回の役員改選により引き続き会長を仰せつかりましたので、この席をお借りしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、東日本大震災があり、この1年間の環境の話題をみても、半数が放射能とがれき処理の問題です。私たちの協議会は、計量証明事業者の団体ですが、近年の業務をみると、環境計量に関する仕事が減少する一方、計量証明以外の測定業務が多くなってきております。

環境測定においては発注元である自治体は財政難であり、年々環境測定に対する予算が縮小してきております。その一方、生活の安全・安心への関心が高まり、食品や製品の有害物の測定業務が増えてきております。

特に昨年から急激に増えてきたのが放射能測定であります。放射線測定は今まで測定を行ってきた機関は少なく、はじめて測定を開始した会社がほとんどであると思われまます。これに関しては、精度管理方法や、測定方法に関する情報が必要であります。これから日環協において「放射能測定分析技術研究会（通称RADI研）」が立ち上がり検討することになっておりますので、日環協とも協力して東環協としてもできるだけ会員の皆様に情報を伝達できるよう考えております。

その一つとして、前回の東環協ニュースに「放射線関係情報」を掲載しました。今後も「技術研修」やホームページも今年度新しくする予定でおりますので、その中で会員の皆様に情報を送ることを計画しております。

これから、2年間、今回改選されました役員と共に東環協発展のために、努力してまいりますので、どうぞ皆様の益々のご支援・ご協力をお願い申し上げます、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

ご来賓の方の祝辞

東京都計量検定所 副所長 柳沢 潔氏



<柳沢副所長>

ただいまご紹介いただきました、東京都計量検定所副所長の柳沢でございます。

本日は、所長の大野の代理としてお伺いしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます

東京都環境計量協議会の皆様には、日頃より計量検定所の業務に対しまして、多大なご支援、ご協力をいただいております。

皆様方には、色々な場面でお世話になっておりますが、例えば毎年、11月1日の「都民計量のひろば」では、東京都環境計量協議会加盟の皆様にご多大なご尽力をいただいております。この場をお借りいたしまして、御礼申し上げます。

東京都環境計量協議会様におかれましては、技術研修会、事例発表会など様々な事業を実施され、環境計量に関する技術の向上に努めていらっしゃるのと伺っております。こうした取組の一つひとつが、環境負荷の少ない都市づくりの実現に寄与されているものと存じております。

ところで、私どもの計量検定所でございますが、これまでもご挨拶しておりますが、来年、平成25年の秋に江東区新砂へ移転する予定でして、現在の浜松町から移る準備をしております。現在、土壌改良工事等が終了したところでして、7月から建築工事を開始いたします。

もう一つご挨拶させていただきたいのは、私どもでやらせていただいております、検定・検査の手数料についてです。

計量器の検定、検査にかかる手数料につきまして、この4月1日から改定をさせていただきました。

都道府県が行う事務が自治事務となったのに伴いまして、平成12年に条例を制定して以来初めての改定でございます。改定前の手数料と当該事務に係る費用つまり原価とを比較しまして、隔たりがあるものにつきまして平均16パーセントの改定をさせていただきました。改定にあたりまして皆様のご理解、ご協力を頂戴いたしましたことに、御礼申し上げます。

東京都計量検定所は、今後とも適正計量の確保に努めてまいりますので、引き続き皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、東京都環境計量協議会の益々のご発展とご参会のみなさま方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

一般社団法人日本環境測定分析協会 会長 橋場常雄氏



<橋場会長>

只今、ご紹介にあずかりました、日本環境測定分析協会の会長を務めております、橋場でございます。本日はお招きいただき、誠にありがとうございます。本日は第35回の総会がつつがなく終了したことをお喜び申し上げます。また、今年は役員改選の時期ということで、金子さんをはじめ任期を終わられて退任される理事の方々、大変ご苦労様でした。新任の理事の方、これから2年間よろしくお願いいたします。さて、先ほど鈴木会長からお話がありましたように、去年のこの日は震災2ヶ月後で、世の中大変動揺していましたが、それから1年経ちまして、先ほどのお話にもありましたように放射能の測定が環境の分野に降りてきたというか、我々がやらなければならない分野となりました。先ほど精度管理の話が少し出ておりましたが、現在日環協の会員の80社以上がゲルマニウム半導体検出器付ガンマ線スペクトロメータを導入し、放射性物質の濃度測定、核種分析を行っております。

まだまだ我々の放射能測定技術というものは、去年から測定を開始した方々ばかりですので至らないところが多いのが現状です。日環協としても精度管理を行っていくために研究会を立ち上げます。これは、ダイオキシン研究会と同じような形でやっていきます。来る5月23日11時から、日環協の総会前に発起会を行います。放射能測定をされている会員の方は是非ご参加いただきたいと存じます。また、日環協は今回会員の方を少し優遇しようということを考えておまして。たとえば、SELFとか技能試験の参加料を、会員の方は安くして、その分大変申し訳ないのですが非会員の方は上げさせていただくことで、差を付けさせていただく政策を取ることにしました。これによって、年1回のSELF、年5回の技能試験、そして研修会を1～2回程度受けていただければ、年会費を含めても参加料が安くなります。入会したほうが安いという価格設定にさせていただきます。まだ日環協の会員でない方もこれを機に入会していただいて、一緒に精度管理を行っていただければと存じます。

招待されても、最後には営業をして帰るとというのが私のいつものパターンです。今後とも東環協の会員の方々と一緒に、日環協は精度管理と国民の安心・安全のために貢献していくつもりです。また1年よろしくお願いいたします。

本日はお招きいただきまして誠にありがとうございます。

平成 24 年度 新任者教育セミナー報告

当協議会では今年度も「環境計量測定データの信頼性の向上」を目的として各種技術講習会等を企画してまいります。その一環として昨年に引き続き日環協関東支部との共催で、新任者や若手分析技術者を対象とした『新任者教育セミナー』を開催いたしました。今年度も千環協と埼環協が加わり、三県単の合同開催となり、41名（東環協：17名）と多くの方にご参加いただきました。

日 時 : 平成 24 年 6 月 20 日 (水) 10:00~17:00

場 所 : (一社)日本環境測定分析協会 2階研修室

講義 1 「労働安全衛生について」 (10:45~12:00)

講 師 : セフティレビュー 大山 喜彦氏



<大山講師>

〔講義概要〕

1. 労働災害発生状況
2. 労働安全衛生法とは
3. 安全衛生管理体制
4. 災害発生の仕組みと災害原因
5. 異常事態と潜在危険
6. 労働安全衛生マネジメントシステム (OSHMS) とリスクアセスメント
7. リスクアセスメント具体例
8. 危険予知訓練と指差呼称
9. 危険予知訓練 (KYT) 具体例

〔参加者の感想〕

- 実際の例と合わせて説明があり、分かりやすかったです。
- 安全衛生、精度等が社内、社外に関係なく常に頭に入れて作業をしていくことが大切であり、難しいことが分かりました。
- リスクアセスメントの重要性を強く感じました。
- 入社の時を思い出し、初心の基礎を忘れかけていたので、セミナーに参加して明日からまた頑張れると思いました。

講義2 「環境計量の仕事とは」 (12:45~14:15)

講師 : 小池技術士事務所 小池 満氏



<小池講師>

〔講義概要〕

1. 環境とは
2. 環境問題への取組みの歴史
3. 環境計量に関わる法令
4. 事業登録と環境計量士
5. 計量法と事業登録制度
6. 資格取得のすすめ
7. 環境計量証明事業者の実態

〔参加者の感想〕

○環境計量の業務の歴史、重要性というものを再認識できました。まだ日は浅いですが、資格取得等、積極的に取り組んでいきたいと思いました。

○法令に関しては社内で何の研修もなかったのととても参考になりました。今後の新人教育にもしっかり取り入れて頂きたいです。

講義3 「精度良い測定のために」 (14:30~16:00)

講師 : (株)佐々木環境技術事務所 佐々木 克典氏



<佐々木講師>

〔講義概要〕

1. サンプリングの基礎
2. 化学分析の基礎と注意点
 - ・ 基礎の基礎
 - ・ 分析に影響を与える因子
 - ・ 標準物質とトレーサビリティ
3. 前処理と機器分析
 - ・ 測定値の計算と検量線
4. 分析値の管理
5. データの取扱

〔参加者の感想〕

○とても分かりやすく、面白い講義でした。分析がメインですが、採水も自分でやっていると、サンプリングで分析結果に違いが出てしまうということなので、バラツキがないように採水していきたいです。

○分析についての話だけではなく、仕事全体に対する考え方、その大切さが伝わってくる講義だったと思いました。仕事に対する考え方が変わりました。

セミナー終了後、東環協、千環協、埼環協にそれぞれ分かれて、修了証の授与式が行われました。授与式後の名刺交換会は、入社間もない参加者にとっては名刺交換の練習という面もあり、最初は遠慮がちでしたが、次第に打ち解けて、活発にディスカッションしたり、講師の方に積極的に質問をしたりしていました。ただし、初めについたテーブルからなかなか離れられない参加者も多く、途中で移動タイムを設けた方が良いのではないかと、との意見も出ました。

また、今回も参加者の皆さんにはアンケートをお願いしました。講義についての感想は、講師の方々にフィードバックするとともに、その一部は上記、記事に掲載いたしました。参加者の方の貴重なご意見・ご要望については、今後の東環協の運営に反映させていただきます。



<受講風景>



<修了書授与式>



<名刺交換会風景(乾杯)>



<名刺交換会風景(講師と懇談)>



<名刺交換会風景(ディスカッション)>

新入会員のご紹介

正会員として新たに2社が入会されたのでご紹介します。

○株式会社環境総合テクノス

このたび、東京都環境計量協議会に正会員として入会させていただきました株式会社環境総合テクノスでございます。

弊社は、「環境」「土木」「建築」の事業分野からなる総合環境エンジニアリング企業です。分析業務は環境分野の主力業務であり、現在は大阪府交野市の計測分析所で実施しています。

今までは、日本環境測定分析協会ならびに大阪環境測定分析事業者協会の一員として皆さまにお世話になっていました。平成22年7月に東京支店を設置して、営業窓口を置くとともに、海洋調査・船上分析を行う技術者を揃えました。今後は、貴協議会の皆さまとの交流を通じて情報交換させていただき、東京においても一定の役割を果たすことができると考えております。

関西弁のメンバーばかりでございますが、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



< (株)環境総合テクノスの計測分析所 >



C H U O K E N T E T S U

中央建鉄株式会社

この度、東京都環境計量協議会に入会させていただきました中央建鉄株式会社でございます。

弊社は、1976年（昭和51年）5月の創業以来、補償コンサルタントとして、建設工事のリスク調査およびコンサルティング事業を、事業損失補償、用地取得補償、環境アセスメント、地質・土質調査および構造物診断の各分野において行ってまいりました。その中で、建設工事による騒音、振動の測定を中心に事業損失補償あるいは環境アセスメントの一環として計量証明事業を行っております。

創業以来30有余年、信用と実績をモットーに数々の損害事例に取り組んで参りました。近年では建築物の損傷の原因として従来から言われておりました地盤変形以外に振動要因に対する関心が高まっており、計量証明事業の重要性が増しております。

今回の入会をご縁に計量証明事業への造詣を深めるとともに、会員の皆様とご一緒に企業発展に貢献出来れば幸いです。

今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



< 中央建鉄(株)の社屋 >

新役員の挨拶

平成 24 年度は役員の改選期です。下記の 3 名の方が退任されました。永年、東環協の運営、発展にご尽力くださいまして、誠にありがとうございました。皆様のご健勝と益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

- ・理事 : 金子 正昭 日本環境(株)
- ・理事 : 濱砂 眞澄 (株)日本シーシーエル
- ・監事 : 佐々木 芳明 (株)ヤクルト本社中央研究所附属分析センター

また、通常総会において、下記の 3 名の方が新たに役員として承認されました。

- ・理事 : 戸賀瀬 龍幸 帝人エコ・サイエンス(株)
- ・監事 : 石山 直樹 日本環境(株)
- ・監事 : 泉 健司 エヌエス環境(株)

新しく役員になられました各氏には、今後の抱負を含め、ご挨拶を頂きました。

戸賀瀬 龍幸 理事 [帝人エコ・サイエンス(株)]



戸賀瀬理事

この度、第 35 回総会で理事に選任されました帝人エコ・サイエンス(株)の戸賀瀬です。

浅学非才の身ではありますが、伝統ある東京都環境計量協議会発展の為、精一杯尽力させて頂く所存です。

さて、皆様ご承知の通り当業界を取り巻く状況は、価格低減、精度向上、納期短縮などお客様からの各種要求は年々厳しくなり、加えて人財等の問題も含め山積する課題への対応に日々奔走している現実があります。

これら課題の背景には様々な要因があり、一朝一夕には解決困難ですが、一方で市民レベルでの環境意識の高まりから、より良い生活環境欲求や、CSR 観点から、より厳しい環境条件を満たした企業活動など「環境」に関する一般社会の認識の大きな変化があります。

今般の理事拝命にあたり、このような業界状況や社会状況の変化を踏まえ、微力ながら当協議会の目的に対し少しでも貢献できるよう努力して参りますので、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

石山 直樹 監事 [日本環境(株)]

第 35 回東京都環境計量協議会総会におきまして、監事を任命されました日本環境株式会社の石山直樹です。

諸先輩方が築き上げた 35 年の歴史と伝統のある、東環協の役員を仰せつかり責任の重さを痛感致しております。

私は、営業の立場で当業界に属して 17 年になりますが、精度管理・品質管理の向上や分析単価の下落など、社会からの要求事項が多くなり当業界を取り巻く状況は厳しさを増すばかりであると常々感じています。

まだまだ若輩者(もう直ぐ 45 歳になりますが…)で、至らぬところが多くあろうかと些か不安ではございますが、『少しでも会員の皆さま方のお役にたてるように』、『当業界の発展と協議会の充実が図れるように』微力ながら一生懸命努力させていただく所存です。

これからも、会員・役員の皆様のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



石山監事

泉 健司 監事 [エヌエス環境(株)]



泉 監事

この度、第 35 回総会において監事に選任されましたエヌエス環境株式会社の泉でございます。諸先輩方が築きあげられました伝統ある東京都環境計量協議会の役員を仰せつかり責任の重さを痛感しております。

さて、平成 23 年 3 月 11 日に発生いたしました東日本大震災による大津波被害と原子力発電所事故による放射能汚染は、日本全体を揺るがし生活の価値観も大きく様変わりさせました。1 年 4 ヶ月が経過した今も国民生活への影響はとてつ大きなものとなっていることを日々感じております。

私は、東環協の目的であります安心・安全な社会の構築と少しでも早い復興に貢献するため、社会に対して信頼性の高い環境計量データの提供を行うこと。また、このために測定技術の向上ならびに会員企業各位の地位と資質向上に少しでも貢献できますよう微力ではありますが一生懸命尽力させていただく所存でございます。

至らぬところも多々あるかと存じますが、役員、会員皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

役員役割分担

平成 24 年度は、下記のような役員役割分担で事業を進めて参ります。

	鈴木	佐藤	竹田	青木	五十嵐	池田	川東	戸賀瀬	中西	中村	石山	泉	三階
役員会議事録							◎	○	○				
ホームページ管理		○			◎	○							
資料作成管理		○	○										◎
会員名簿管理					○					○	○		◎
首都圏連絡委員会	◎		○							○			
東環協ニュース				○		◎		○	○				
官庁関係挨拶等	◎	○	○										
新任者教育セミナー	○	◎	○		○	○							○
日環協関東支部セミナー	○	○	○										
見学・研修会				◎					○		○		
大環協事例発表会	○	◎											
技術研修会		◎					○	○	○			○	
事例発表会		◎			○	○						○	
都民計量のひろば			○						◎	○		○	
懇親会(ゴルフ、その他)			○							◎	○		
賀詞交歓会	○	○	◎										
総会	○	○	◎										
会計監査	○	○	○							○	○	◎	
役員研修会	○	◎	○										○
記録写真					○		○						
各種イベント受付				○					○		○		
事務局	○	○	○										○

◎ 主担当

○ 担当

放射線関係情報(2)

東日本大震災に伴う、福島第1原子力発電所の事故から1年以上経過し、環境把握のための測定から、除染の業務が多く動き出してきました。各省庁のホームページにおいても日々情報が更新されています。主なものをピックアップしました。

また、環境放射能除染学会も立ち上がりました。

○環境省

環境省の放射線関係のホームページが、「放射性物質対策」と「環境汚染情報サイト」の二つになりました。除染関係は「環境汚染情報サイト」に多く記載されています。

<http://www.env.go.jp/jishin/rmp.html>

<http://josen.env.go.jp/>

水浴場の指針値が、水道水の管理目標値を踏まえ新しくなりました。

<http://www.env.go.jp/jishin/rmp/attach/no120608001.pdf>

○文部科学省

放射能モニタリング情報が記載されています。

「放射線モニタリング情報」

<http://radioactivity.mext.go.jp/ja/>

航空機モニタリング、土壌汚染マップ等の情報

各省庁が行った、環境、水産物、農産物、水道、廃棄物等のモニタリング情報

都道府県別の空間線量測定結果

他の省庁、自治体のモニタリング情報もリンクされており確認できます。

○厚生労働省

食品に含まれる放射性核種の基準が4月より新しくなりました。

http://www.mhlw.go.jp/shinsai_jouhou/shokuhin.html

○環境放射能除染学会

5/19-21日に福島県の飯坂温泉（パルセいいざか）において 第1回環境放射能除染研究発表会が開かれました。

<http://khjosen.org/>

水質汚濁防止法改正について

水質汚濁防止法が改正され、有害物質による地下水汚染の未然防止を目的とした新制度が、本年6月1日より施行されました。これに伴う届出の提出の連絡が、東京都より届いていることと思います。この中で、計量証明事業所は、以下の有害物質使用特定施設にあたり、届出が必要となります。(法第5条第3項)ただし、法第5条第1項により届出を行っている場合は適用外です。

有害物質使用特定施設 特定施設の種類 71-2 (洗浄施設)

(水質汚濁防止法施行令 別表第1 (第1条関係))

対象となるのは、主に下記の施設となります。

洗浄施設：水洗槽 (流し)

ドラフトチャンバー

対象施設の考え方

水質汚濁防止法施行令第2条(カドミウム等の物質)に示される有害物質を検出下限値^{注)}以上含む排水、洗浄水を流が流れる場合が対象となります。

注) 検出下限値は、環境基準を測定する場合の下限値が目安となる

例 1) カドミウム等の物質を含む溶液は、別途保管容器に入れた場合でも、器具に付着した有害物質が洗浄により流れる。

例 2) アンモニア水、アンモニウム塩、硝酸、硝酸塩(硝酸を中和した場合も含む)を含む排水、洗浄水を流す場合。

例 3) 地下水の測定で、VOC が検出下限値以上検出された試料の残液を流す場合。

上記洗浄施設においては、流す(洗浄に用いる)流しを限定している場合は、その流しが対象となりますので、この場合その施設の全ての流しを届け出る必要はありません。

ドラフトチャンバーは、硝酸、ふっ酸を分解で使用する場合、排気洗浄に用いた水に、硝酸塩、ふっ素が含まれるため届出の対象となります。

廃液を貯留したポリタンク等は今回の対象にはなりません。管理は十分行ってください。

届出様式の記載について別紙12、別紙13、別紙14の例を示します。

別紙12 有害物質使用特定施設の構造

例) 流し等の構造(材質例: ステンレス)

別紙 13 有害物質使用特定施設の設備

例) 流しに付属する設備 (配管等)

別紙 14 有害物質使用特定施設の使用の方法

例) 各企業における施設の使用実態

構造及び点検に関しては以下のマニュアルを参考にしてください。

地下水汚染の未然防止のための構造と点検・管理に関するマニュアル (第 1 版)

平成 24 年 4 月 環境省

<http://www.env.go.jp/water/chikasui/brief2012/manual-main.pdf>

添付の別紙は、例) ですので、各企業において設備には、特徴があると思います。不明な点は、東京都に確認してください。

問合せ先

東京都環境局自然環境部水環境課河川水質係

Tel: 03-5388-3494

別紙 12

有害物質使用特定施設 (有害物質貯蔵指定施設) の構造

工場又は事業場における施設番号	No. 1	
有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	<input checked="" type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 貯蔵	<input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 貯蔵
型 式	DALTON NA-111N	
構 造	ステンレス	
主 要 寸 法	600×750×800	
能 力		
配 置	測定室	
床面及び周囲	床面:コンクリート ビニルエステル樹脂床シート	
設 置 年 月 日	2000年 5月 1日	年 月 日
工 事 着 手 予 定 年 月 日	年 月 日	年 月 日
工 事 完 成 予 定 年 月 日	年 月 日	年 月 日
使 用 開 始 予 定 年 月 日	年 月 日	年 月 日
その他参考となるべき事項		

備考 1 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置について図面を利用して記載してください。(添付第 () 図のとおり)

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の設備

工場又は事業場における施設番号	No. 1	
有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	<input checked="" type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 貯蔵	<input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 貯蔵
設備	排水管	
構造	塩化ビニル管	
主要寸法	コンクリートトレンチ溝内に敷設 径80mm、延長10m	
配置	測定室	
設置年月日	2000年 5月 1日	年 月 日
工事着手予定年月日	年 月 日	年 月 日
工事完成予定年月日	年 月 日	年 月 日
使用開始予定年月日	年 月 日	年 月 日
その他参考となるべき事項	トレンチ溝内面は塗装防水	

備考 配置の欄には、当該有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備の配置について図面

を利用して記載してください。（添付第（ ）図のとおり）

参考

点検内容・頻度等	流し接合部、床面までの配管 年1回以上の目視点検 トレンチ溝内は、開口部より年1回以上の目視点検	
----------	--	--

有害物質使用特定施設（有害物質貯蔵指定施設）の使用の方法

工場又は事業場における施設番号	No. 1	
有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	<input checked="" type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 貯蔵	<input type="checkbox"/> 使用 <input type="checkbox"/> 貯蔵
設置場所	測定室	
操作の系統	別紙	
使用時間間隔	休日を除く毎日	
1日当たりの使用時間	2時間	
使用の季節的変動	なし	
原材料(消耗資材を含む。)の種類、使用方法及び1日当たりの使用量（有害物質使用特定施設の場合に限る。）	各企業の作業内容に準じて記載してください 有害物質種類：	有害物質種類：
貯蔵する有害物質の種類（有害物質貯蔵指定施設の場合に限る。）	なし	
その他参考となるべき事項	毎月、排水の濃度測定を実施	

備考 有害物質貯蔵指定施設の場合には、使用時間間隔の欄及び1日当たりの使用時間の欄には、それぞれ当該施設への有害物質を含む水の供給時における当該施設の使用時間間隔及び使用時間を記載してください。

関係機関・団体の動き

平成 24 年 7 月現在で、既実施又は今後予定されている関係機関及び団体の動きは、以下のとおりです。

○ 首都圏環境計量協議会連絡会

- ・ 第 1 回委員会 6 月 1 日 神田
- ・ 大環協との交流 6 月 21, 22 日 (神環協・埼環協にて対応)

○ 神奈川県環境計量協議会

- ・ 第 37 回通常総会 5 月 18 日 東邦クラブ
- ・ 親睦会 5 月 30 日 上総モナークカントリークラブ
- ・ 新任者教育セミナー 6 月 13, 14 日 東邦クラブ
- ・ 親睦会 6 月 23 日 (地引網)

○ 埼玉県環境計量協議会

- ・ 第 36 回通常総会 5 月 25 日 大宮サンパレス
- ・ 新任者教育セミナー(日環協共催) 6 月 20 日 日本環境測定分析協会

○ 千葉県環境計量協会

- ・ 第 36 回通常総会 4 月 20 日 プラザ菜の花
- ・ 新任者教育セミナー(日環協共催) 6 月 20 日 日本環境測定分析協会
- ・ 見学研修会 9 月 14 日 産総研ほか

○ 日本環境測定分析協会

- ・ 平成 24 年度通常総会 5 月 23 日 タワーホール船堀
- ・ 新任者教育セミナー 6 月 20 日 日本環境測定分析協会
- ・ 第 23 回日環協・関東支部
環境セミナー in Takasaki 7 月 12 日
～13 日 エテルナ高崎
- ・ 第 20 回日環協・環境セミナー
全国大会 in Hokkaido 9 月 20 日
～21 日 京王プラザホテル札幌

東環協からのお知らせ

○平成 24 年度これからの主要行事予定



今年の見学・研修会〔9月10日(月)予定〕は、一昨年に計画したものの予想外の人気で予約の取れなかった、埼玉県の一部に建設された世界最大級の地下河川（地下神殿）の見学を改めて計画しました。地下50mを流れる、世界最大級の地底放水路は中小河川の洪水を地下に取り込み総延長6.3kmのトンネルを通して江戸川に流す洪水防止施設です。洪水に強い都市作りの一躍を狙い首都・東京の安全を支える施設をこの機会に是非、体験してください。皆様のご参加をお待ちしています。

その他の、既に実施又は今後予定されている行事は、以下のとおりです。各行事については、詳細が決まり次第、随時ご連絡します。

- | | |
|---------------------------|------------|
| ・平成24年度第1回（通算第24回）親睦ゴルフ大会 | 7月20日(金) |
| ・技術研修会 | 10月12日頃 |
| ・都民計量のひろば | 11月1日(木) |
| ・環境測定技術事例発表会 | 11月14日頃 |
| ・平成24年度第2回（通算第25回）親睦ゴルフ大会 | 11月22日頃 |
| ・賀詞交歓会 | 平成25年1月の予定 |

○事務局からのお知らせ

- ・平成24年度の会員の動き

現在の会員数（平成24年7月現在）

正会員	80社		
賛助会員	8社	合計	88社

- ・編集後記

役員一同の協力もあり、「東環協ニュース第150号」が完成しましたので、皆様にお届けいたします。東環協ニュースは今号で節目の第150号の発行となりました。今後も会員の皆様のご協力を得ながら、より良いものにしたいと思います。ニュースに関するご意見・ご感想等がありましたら、事務局までご連絡ください。宜しく願い申し上げます。